

製造業安全対策官民協議会
サブWG(田村チーム)の今後の検討の進め方(案)

1 産業安全の経済効果及び社会的評価関係

(1) 産業安全の経済効果

- ① 産総研 牧野主任研究員により、中災防が過去に実施した調査研究も参考にしつつ、「安全に係る費用」(費用)と「安全対策に係る効果」(便益)のそれぞれの算出項目を提案する。
- ② ①の提案に対して、委員から、算出可能なものか否か、他の算出項目の必要性について意見をいただき、算出項目を確定させる。
- ③ 当該算出項目を活用して、事業場レベルでの「安全に係る費用」(費用)の経済効果を試算するため、活用可能なデータを検討し、併せて、そのデータの収集方法を検討する。

(2) 産業安全の社会的評価

- ① 厚生労働省が実施している「安全衛生優良企業公表制度」の認定基準、産業分野(鉄鋼、製紙、化学、自動車等)ごと、又は産業分野に共通する、企業・事業場等に対する社会的評価(表彰制度など)の評価基準を把握する。
- ② その後、「健康経営」等の手法を参考に、①で把握した評価に報いる方法について検討する。

2 産業界における安全教育の体系的プログラム等関係

(1) 安全教育の体系化

- ① 各産業分野(鉄鋼、製紙、化学、自動車等)における階層別の安全教育プログラムを収集する。
- ② キーワードを手がかりに、安全教育科目をとりまとめる。
- ③ 産業分野に共通する、又は分野別の階層別の安全教育プログラムを作成する。
- ④ 加えて、危険体験教育を実施している機関を紹介する。

(2) 学校教育

- ① 当分の間は、学校教育の見直しに関する自由な意見交換を行う。
- ② 最終的には、産業界として学校教育に貢献でき得る事項をとりまとめる。